

平成30年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	分析（成果と課題）及び改善策等〔前期〕
1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、志望する国公立大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① 生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 45%未満 【判定B】	後期授業評価において、5項目におけるA評価の平均は53%であった。内訳は、「ねらい」56%、「熱意や工夫」58%、「説明や指示」53%、「考えさせる場面」60%、「興味・関心」38%である。前期に比べどの項目も評価が高くなっており、授業改善の成果が現れたと思われる。今後もさらに授業改善に努めていきたい。〔48%〕
	② 授業や総合的な学習の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	自らの学習について (7) 授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (4) 授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (9) 授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (5) その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。 (7)+(4)の合計が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 【判定B】 家庭学習時間が学年の目標値に達している1・2年生の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 【判定D】	生徒対象の後期学校評価アンケートにおいて、3教科の肯定的な回答の平均は、67%（英語68%、数学61%、国語61%）であった。1、2年生のうちに自分に合った学習スタイルについて考えて主体的に学習に取り組む姿勢を身につけることにより、弱点克服の基本的な学習や得意分野を伸ばす発展的な学習に取り組ませていきたい。 〔英64% 数64% 国56%〕 1月現在で、1・2年生で1日の目標学習時間（1年2.5時間以上、2年3時間以上）に達している生徒は32%（1年34%、2年30%）であり、前期より減少した。適正な量・質の課題の提示に努めていくことはもちろん、主体的に家庭学習時間に取り組むための興味・関心を高める授業改善を進めていきたい。 〔37%（1年42% 2年32%）〕
	③ 国際社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	1年次12月に受検したGTECの本校平均スコアに比べ、1年後の2年次12月に受検するGTECの本校平均スコアの伸びが、 A 60点以上 B 50点以上 C 40点以上 D 40点未満 【判定D】	現2年生において、1年次のトータルスコア472。2が2年次には500。1となり、スコアの伸びは27.9点にとどまった。3技能の内訳を見ると、リスニングが15.3点伸びたのに対して、リーディングの伸びはわずかであった。今後もリーディング、スピーキングを中心にバランスのとれた英語教育を心がけていきたい。〔昨年度32.6（1年次45.8、2年次48.4）〕
	④ 高い志を持って進路達成に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	合格者数が A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず ※ア（難関大10名以上）、イ（金沢大60名以上）、ウ（国公立大180名以上） 【判定B】	合格者数は、難関大学19名、金沢大学52名、国公立大学217名であり、難関大学に挑戦する生徒が増え、加えて地元金沢大学合格者も伸びた。ア～ウのどの項目も昨年を上回っている。 1年次からしっかりと意識付けを行い、生徒たちは目標に向かって粘り強く取り組んでいた成果があらわれた。早い段階での意識付けの大切さを示した結果でもある。
	⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。	限られた時間の中で効率的・効果的な活動に取り組んでいる部活動が A 70% B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 【判定A】 下校時刻を遵守している生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 【判定C】	今年度より運動部、文化部のすべての部活動で原則平日1日の活動時間、土日1回の休養日を設定している。その中で教員は86%、生徒は73%が「効率的・効果的な活動に取り組んでいる」と回答し、平均は80%であった。今後も、生徒の健康面を考慮し、円滑な活動が実施できるようにしていきたい。 〔平均85%（教員90% 生徒79%）〕 生徒対象の後期学校評価アンケートにおいて、遵守している生徒は85%（「よくあてはまる」が62%、「ほぼあてはまる」が23%）であった。前期より4ポイント増加したが、時間の使い方について考えさせ、はじめある学校生活を送ることをさらに徹底していきたい。〔81%（よく58% ほぼ23%）〕
学校関係評価委員会の評価	・学校自己評価（教員）と保護者学校評価で乖離が見られる項目がある。評価の数字よりも、どういう点に問題があるかを意識することが大切である。 ・学校評価（教員）の「いしかわニュースーパーハイスクールとしての教職員の共通理解と学校運営」について「わからない」という回答があることが気になる。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・自由記述欄に書かれた項目ひとつ一つに真摯に対応していくことによって、数字よりも、問題の内容を重視するように努める。 ・NSHに対する関わりの有無により意識に温度差があると思われる。学校として、NSH本来の目的を確認するとともに取り組みの見直しも検討していく。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	分析（成果と課題）及び改善策等
2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識など人としての基本を身に付けた、心身ともに逞しい生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	<p>・積極的に挨拶をしていることについて (ア) よくあてはまる (イ) ほぼあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない</p> <p>・きちんとした頭髪・服装をしていることについて (ア) よくあてはまる (イ) ほぼあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない</p> <p>(ア) + (イ) の合計が 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満 D</p>	<p>生徒、保護者、教員対象の後期学校評価アンケートの結果、平均は78%であり、内訳は、生徒83%、保護者72%、教員80%であった。 [平均77% (生82% 保70% 教79%)]</p> <p>【判定C】</p> <p>生徒、保護者、教員対象の後期学校評価アンケートの結果、平均は90%であり、内訳は、生徒94%、保護者93%、教員84%であった。 [平均87% (生94% 保91% 教83%)]</p> <p>【判定A】 前期に比べ、挨拶、頭髪・服装ともに、保護者、教員の評価は若干向上している。今後もこれらのことについて、保護者の協力のもと生徒の指導にあたっていきたい。</p>
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。	<p>生徒は、自転車に乗車するときは交通ルールを (ア) いつも守っている (イ) だいたい守っている (ウ) あまり守っていない (エ) ほとんど守っていない</p> <p>(ア) の率が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>生徒の交通事故が昨年度より多く注意を促してきた中、後期学校評価アンケートにおいて、「いつも守っている」との回答は58%で、前期に比べ交通安全への意識の向上が見られた。「だいたい守っている」と回答した生徒は32%であり後期と変わらない。次年度も、生徒、保護者、教職員が協力した交通安全啓発活動に取り組み、生徒の交通ルール遵守の意識を高めていきたい。 [51% (だいたい37%)]</p> <p>【判定B】</p>
	③ 生徒の健全な心を育み、一人ひとりが安心して学校生活を送ることができる、明るくさわやかな校風の樹立をさらに進める。	<p>本校は学習における悩みや人間関係（いじめ等）に関する悩みを相談しやすい (ア) よくあてはまる (イ) ほぼあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない</p> <p>【判定D】</p> <p>教員は、日常の様子から生徒の発するサインを見逃さないことを意識している (ア) よくあてはまる (イ) ほぼあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない</p> <p>【判定A】</p> <p>(ア) + (イ) の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>生徒対象の後期学校評価アンケートにおいて、「よくあてはまる」と「ほぼあてはまる」を合わせると58%であり、前期比べ相談のしやすさのポイントは増加した。しかし、「わからない」という回答は26%（前期は27%）とまだ多い。今後、「困ったときには相談する場所がある」ということを生徒に理解してもらい、一人で悩むことのないようにスクール・カウンセラーと協力して相談しやすい環境作りをさらに進めていきたい。 [43% (わからない27%)]</p> <p>教員では、「よくあてはまる」と「ほぼあてはまる」を合わせると100%となり、高い意識をもって今後も生徒の様子を見ていきたい。</p>
	④ 生徒面談シートを活用し、PDCAサイクルを意識させた面談を行い、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。	<p>1・2年生において、学校で定めたスマートフォン利用の注意を守っているという生徒が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>スマートフォン使用時間が1時間以内という生徒は28%（1、2年それぞれ、30分以内が4%、4%、30分～60分が22%、26%）であり、1年生において、使用時間が増加している。3学期早々に学年会において、利用方法についての注意が行われたが、あらためて面談等で働きかけ、効率的に進学校の高校生らしい利用方法を考えさせたい。 [38% (30分内1年7%、2年4%、30～60分1年34%、2年30%)]</p> <p>【判定D】</p>
	⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	<p>年間貸出冊数が A 2000冊以上 B 1800冊以上 C 1600冊以上 D 1600冊未満</p>	<p>図書館貸出冊数の4月から3月までの最終集計は、のべ3405冊である。昨年度は1775冊であった。今後さらに生徒に対する読書の啓蒙活動を盛り上げていきたい。</p> <p>【判定A】</p>
学校関係評価委員会の評価	<p>・スマートフォン使用時間の増加に関して、最近スマートフォンを使って勉強している生徒も増えているのではないかと。娯楽に使っている時間を問うなど、質問内容を検討してはどうか。</p>		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<p>・スマートフォンの使用に関して、eポートフォリオの蓄積など教育活動としての使い方もあり、使用方法についての指導の継続と実態のわかる質問項目の検討を行う。</p>		

重点目標	具体的取組	現状の達成度判断基準	分析（成果と課題）及び改善策等															
<p>3 校は「文武両道」を実践するため、教員自らが資質向上に励み、生徒の主体性、自己肯定感を高め、明るく活気があり、地域から信頼される学校づくりに努める。</p>	<p>① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。</p>	<p>時間外勤務時間を昨年度より減少させることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> <p style="text-align: right;">【判定C】</p>	<p>会議の効率化や分掌業務の見直しを行い、時間外勤務時間を減らすことをすすめてきたことで、(ア)+(イ)の合計は77%と前期に比べ7ポイント増加したが、「わからない」との回答がまだ11%ある。ワークライフバランスやタイムマネジメントについてさらに教職員の共通理解を深め、働き方改革を進めていきたい。 [64%(わからない15%)]</p>															
	<p>② 校内研修会をより充実させ、今日的課題の理解とそれに対応する教員の資質を高めるとともに若手教員の早期育成を目的とした研修を行う。</p>	<p>取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> <p style="text-align: right;">【判定A】</p>	<p>教員対象の後期学校評価アンケートにおいて、「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」の合計は97%であり、内訳はそれぞれ31%、66%であった。後期校内研修としては授業改善・授業力向上に向けて、10月にiPad活用、11月に教科指導訪問を行った。今後も若手育成も意識したOJTの充実を含め教育活動に役立つ研修を行っていきたい。 [94%(よく20%、ほぼ74%)]</p>															
	<p>③ 部活動の活性化を通して、競技力や技能の向上に努めるとともに、生徒の自主性や自立心の育成を図る。</p>	<p>北信越大会以上の大会に参加した部活動が A 15以上 B 12以上 C 10以上 D 10未満</p> <p style="text-align: right;">【判定A】</p>	<p>北信越大会以上の大会に参加した部活動について、総体及び総文では、運動部9(剣道、サッカー、バレー、バドミントン、陸上競技、柔道、空手道、水泳、ボート)、文化部4(箏曲、文芸、放送、新聞)、合計13である。新人大会等では、運動部4(剣道、卓球、陸上競技、空手道)、文化部2(吹奏楽、放送)、合計6である。したがって、部活動数は15、総参加数は19となり、全体として部活動は活発に行われていると考えられる。今後も部活動を通して、生徒の自主性と自立心の育成を図っていきたい。</p>															
	<p>④ 保護者が本校の教育活動に参加する機会を増やすことにより、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭と学校との連携を更に深める。</p>	<p>本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が A 4500名以上 B 4300名以上 C 4000名以上 D 4000名未満</p> <p>行事 入学式、PTA総会、進路説明会(1年、2年)桜高祭、3S歩行、学校公開、卒業式</p> <p style="text-align: right;">【判定D】</p> <hr/> <p>年間を通じての本校ホームページへのアクセス数が A 20万件以上 B 18万件以上 C 16万件以上 D 16万件未満</p> <p style="text-align: right;">【判定B】</p>	<p>今年度の来校者数(協力者数)は3885名である。昨年に比べ桜高祭で200名ほど減少しているが、悪天候の影響があったと思われる。これからも学校行事の充実を図るとともに、学年便りやメール配信等を利用して本校行事に対する保護者への周知を図り、学校への関心を高めていきたい。※桜高祭の来校者数には保護者以外に同窓生等の数も含まれている。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>入学式</td> <td style="text-align: right;">538名</td> <td>PTA総会及び学年別懇談会</td> <td style="text-align: right;">418名</td> </tr> <tr> <td>1・2年保護者進路説明会</td> <td style="text-align: right;">487名</td> <td>桜高祭</td> <td style="text-align: right;">1024名</td> </tr> <tr> <td>3S歩行(含協力者会議)</td> <td style="text-align: right;">962名</td> <td>学校公開(教育ウィーク)</td> <td style="text-align: right;">34名</td> </tr> <tr> <td>卒業式</td> <td style="text-align: right;">422名</td> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">3885名</td> </tr> </table> <p>4月から3月末までの本校ホームページへのアクセス数は185,614件(昨年度200,987件)であった。迅速に学校行事の情報を提供するのはもちろん、保護者の方や地域の方にタイムリーで充実した内容の情報を提供できるように努めたい。</p>	入学式	538名	PTA総会及び学年別懇談会	418名	1・2年保護者進路説明会	487名	桜高祭	1024名	3S歩行(含協力者会議)	962名	学校公開(教育ウィーク)	34名	卒業式	422名	合計
入学式	538名	PTA総会及び学年別懇談会	418名															
1・2年保護者進路説明会	487名	桜高祭	1024名															
3S歩行(含協力者会議)	962名	学校公開(教育ウィーク)	34名															
卒業式	422名	合計	3885名															
<p>学校関係評価委員会の評価</p>	<p>・演劇部のように女子の多い部に男子が1名でも活動していることや、逆に男子が主の部に女子も参加している部があり、多様性があり良いことだと思う。</p>																	
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・学力の三要素に含まれている協働性は、協力し合う経験を積み重ねることによって養われる。この観点から、部活動における男女の協働性を重視するためにも、部活動全体に広がるようにしたい。</p>																	